

公表	事業所における自己評価総括表
----	----------------

○事業所名	きららにじぐみ（児童発達支援）		
○保護者評価実施期間	令和8年1月26日	～	令和8年2月11日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	30名	(回答者数) 17名
○従業者評価実施期間	令和8年1月26日	～	令和8年2月11日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月31日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個々のこどもに対し、多職種（保育士・社会福祉士・言語聴覚士）の専門性を活かしてアセスメント、支援を行っている。	個別支援計画・モニタリングでは、それぞれの技術や役割をもとに意見を出し合い、個別支援計画に記載された内容の実行状況を確認し、見直し案を検討している。	それぞれの専門職を理解するために事業所内や併設しているこども園内で職員研修を行っている。また、カンファレンスを日々行い、職員間で情報共有をし支援している。
2	こども園に併設しているため、クラス担任と情報共有する機会がもちやすい。	こども園の担任と情報交換会や会議を行っている	保育現場の状況をより把握できるよう、文章等でも回覧していきたい

	事業所の弱み（※）だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	にじぐみを利用している保護者間のつながりが少ない	児童発達支援管理責任者や指導員が保護者と面談を行っているが、保護者同士で話ができる機会がない。	保護者会や茶話会、または保護者に向けた研修会等の中で、保護者同士のつながりができたらよいと考えている。また、子育ての悩み等も話せる場ができれば良いと考える。
2	事業所で行事等をしたことがなく、地域に向けた発信がない。	子どもたちの活動（絵画や作品作り）等を作品展示したり、地域に向けた取組がない。	事業所の行事の一環で作品展示会等の機会があると良いと考える。事業所のことが紹介できることにより、地域に開かれた事業運営ができると考える。
3	保護者が見学する機会が少ない	利用児の実際の支援を見る機会が少ないため、「わからない」または、回答率が低いのではないかと感じた。	ご利用前の見学では室内を見学していただいているが、実際のこどもの姿を見ていただく機会を作ることで、よりにじぐみを知っていただき、安心できる事業所になるように努めていきたい